

●町民の広場

明るい未来

大崎公民分館 女性部長

小屋 隆子



青空の下、力強く咲き誇るヒマワリに大地の恵みを感じるこの頃です。

さて、私は昨年から大崎公民分館の女性部の役員をさせていただいております。各行事を通して、皆様のご苦労や、頑張りを見える度に、参加意識が芽生え、感謝しております。そして、これまで分館行事への参加と協力が足りなかったことを反省しております。小さな組織の活性化が元気な町作りへの原動力になると思います。どうぞ、各種行事にはすすんでご参加いただき、元気な分館作りにご協力ください。

また、私は仕事の関係で、近隣の各市

町村の役所に度々出かけます。玄関に入るなり、その町の空気を感ずります。同じ県内ながら、この多様さをとて不思議に、又楽しく思います。気さくさ、優しいさ、クールさなど、風土、風習を土台に長い間培われた町民性が、その町の雰囲気を作っているのでしょうか。でも、自分の町のこととなると、意外と分らないものです。他町の方々は、この町をどう捉えているのでしょうか。魅力ある町、活気ある町をイメージしてもらえたら、町民冥利に尽きるというものです。

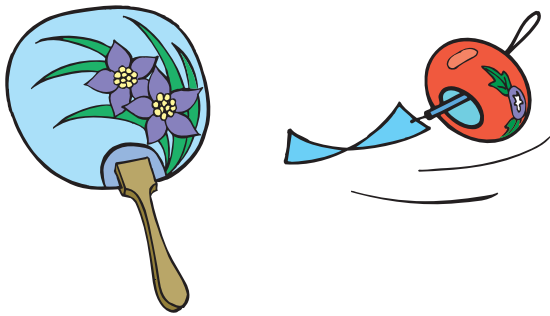
合併風潮が一段落した今、せつかく消滅しなかった「大崎町」ですので、みんな素敵な町に育てていきたいものです。大崎町議会でも小さいながら、いえ小さいからこそ、夢のある大崎町のために活発な議論を交わしていただきたいと思えます。

そして、町民に夢と希望を与えてくださるようお願いいたします。

私達町民もできることから始めましょう。私は、女性として、母親として、青少年の心の育成が重要だと感じます。たとえば家族、地域が取り組み声掛け運動を

実施するなどして、いい環境を作り、未来の大崎町の担い手である子供たちに思いやりの心を育んでほしいと思います。犯罪の低年齢化が社会問題になっていますが、大人の惜しみない愛情は、きつと子供の心に届くと思います。

最後に、最近痛切に感じるのですが、前向きな人ほど元気がということですが、「病は気から」の心得です。単独町に対しても、行政、議会、町民が、目標を持ちポジティブにとらえ、愛情あふれる町を目指したいものです。



編集後記

平成17年7月14日、町立野方保育所の落成式が行われ、テープカットの後、保育所園児14名によるくす玉が割られました。

野方保育所は、昭和45年、定員60名で発足し、当時の需要に応じ、昭和49年90名に増設されましたが、老朽化が進み、今回、中学校跡に移転改築されました。

新しい保育所が、少子化に歯止めをかけるべき施設として、将来を担う児童保育施設となることを願っております。

今年からは空梅雨の年で、稲も順調に育ち、例年になく豊作と聞いております。また、日中の温度が30度以上となる日も続いております。稲刈りに携われる方々には、日射病などに万全の対策を講じ仕事にお励みください。

議会、だより第96号をお届けいたします。町民みなさま方の紙面や議会に対するご意見、ご感想をお聞かせください。

広報編集委員一同